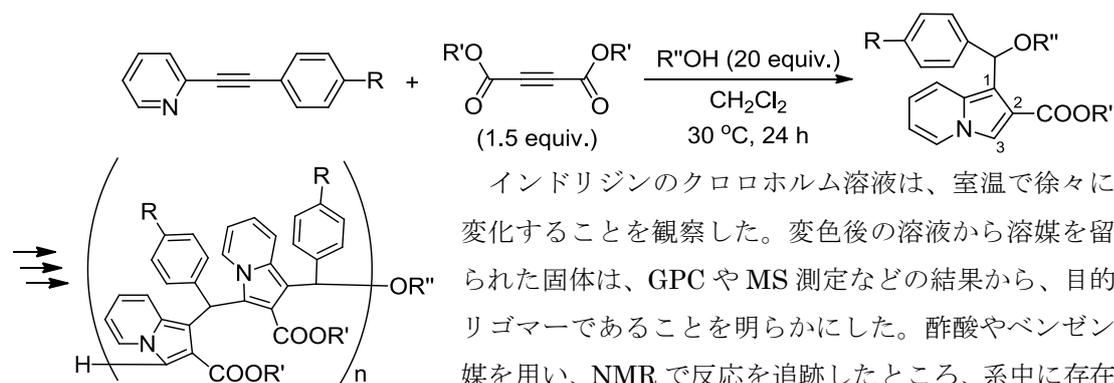


エチニルピリジンとアセチレンジカルボン酸エステルの環化付加反応によって得られるインドリジン誘導体は、3位の電子密度が高い一方で、1位の側鎖上に置換しているアルコキシ基は容易に脱離し、安定なベンジルカチオンを与える。これらの構造的特徴を利用すれば、縮合反応によりインドリジン環を主鎖に有するオリゴマーの生成が期待される。



量だけでなく、太陽光もオリゴマー化の促進に効果があることを見出した。さらに、有機溶媒への溶解性を高めたオリゴマーの合成についても検討を行い、オリゴマーの構造や物性評価を可能にした。